

Title	複合動詞「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味分析
Sub Title	
Author	鄒, 文君(Su, Bunkun)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2014
Jtitle	日本語と日本語教育 No.42 (2014. 3) ,p.139- 139
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20140300-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

〔日本語教育学講座修了論文〕

複合動詞「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味分析

鄒 文 君

本論文は、複合動詞「～切る」、「～抜く」、「～通す」の意味を明らかにすることを目的として作成したものである。

元動詞「切る」、「抜く」、「通す」は、もともと「完遂」の意味を持っていないものの、複合動詞の後項動詞として働くと、「完遂」の意味を表すことができるが、日本語学習者にとって理解しにくいところである。したがって、本論文では、これらの複合動詞を研究対象として、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を利用して、分析対象となる複合動詞の用例を収集した。そして、本論文では、影山太郎(1993)にしたがって、複合動詞を「語彙的複合動詞」と「統語的複合動詞」に分類する方法で考察した。

まず、統語的複合動詞は、前項動詞が「意志動詞」・「無意志動詞」の別によって後項動詞の意味を分類する方法を提案した。統語的複合動詞の場合、前項動詞が意志動詞になると、「完遂」を表し、無意志動詞になると、「極限」を表すことが分かった。三者の意味用法の異同について、「完遂」を表す場合、特定の目的・目標を達成するまで動作を続ける意味が共通していることが分かった。その中で、「～抜く」は、動作主の意志性と「困難を克服する」という意味が最も強く、「～通す」は「途中とまることがない」という動作の連続性を最も強調している。そして、「～切る」は、動作完遂の可能性を示す「～切れる / ～切れない」という表現を持っている。一方、「～切る」と「～抜く」は、前項動詞が無意志動詞である場合、「極限」を表すことができる。「極限」の意味を取る「～抜く」は、「完遂」を表す場合と同じように、動作・状態の持続を表す性格が強い。それに対して、「～通す」は、前項動詞が無意志動詞にならないことで、「極限」を表すことができないことも述べた。

次に、語彙的複合動詞は、語構成論の観点から、前項動詞と後項動詞の語構成要素の意味と両者の意味的關係と語彙化によって付加された「+α」の意味に注目して考察した。語彙的複合動詞の場合、「～切る」、「～抜く」、「～通す」は、「切る」、「抜く」、「通す」のもともとの意味から転用された意味を表すことができることが分かった。語彙化された「完遂」と「極限」を表す以外に、語彙的複合動詞「～切る」は、「切断」「中止」、「果断(さっぱり(と) / はっきり(と)……する)」を、「～抜く」は「拔出・抽出」と「貫通」を、「～通す」は「貫通」と「貫徹」を表すことができることを明らかにした。さらに、語彙的複合動詞の場合は、前項動詞と後項動詞のもともとの意味から説明出来ない「+α」の意味が加えられる場合が多いことから、個別に考察すべきであることも述べた。